

ご縁に感謝し、 愛する台湾と 日本への恩返し



羅 婷婷（ラ テーテー）さん

台湾 台北市出身。福井県出身の夫と結婚し、息子二人。
長年、大人向けの中国語教育に携わったノウハウを活かし台湾華語・
中国語の会話教室「中文工房 フォルモサ」を運営。語学指導の傍ら、
通訳や翻訳、インバウンドサポート業務も展開している。

2020年にふくい外国人コミュニティリーダーとして委嘱。

—日本に来たきっかけは？

大学が日本語学科だったんですが、大学2年生の時に東京に留学していた姉の紹介で、2週間ほど北海道で留学生向けのホームステイプログラムに参加しました。

本当は日本国内の留学生向けのプログラムでしたが、前年に姉が参加していて、妹も日本語を勉強しているからとホストファミリーにお願いをしてくれました。

お父さんとお母さんだけのファミリーだったんですが、たくさんの留学生を受け入れていて、でも、多分姉妹続けて行ったのは私たちだけでしたね。

だからかな、その後も付き合いが続いて、寝台列車に乗って福井の結婚式にも来てくれました。

お二人とももう亡くなりましたが、最後まで本当にお世話になりました。お父さんのお葬式の時は、子どもを一人はおんぶして、一人は手をつないで、姉も一緒に参列しに行きました。また、お母さんがお正月を一人で迎えると聞き、家族で行って一緒に過ごしたりも...ご縁ですね。

—その後、福井に来られた経緯は？

結婚した人が福井出身だったからですね。台湾の大学を卒業する前に偶然、日本台湾交流協会の奨学金について知りました。奨学金を使って名古屋大学大学院に入学し、そこで夫と知り合いました。

その後、夫が就職で福井に帰り、私も修士課程を卒業し、博士課程に上がる前に結婚して、福井に住み始めました。2000年に結婚したので、福井に住んで今年で20年目ですね。



—出産、育児も福井でされたんですか。

はい、そうです。出産の話を見せてもらおうと、台湾人と日本人の出産に対する考え方が結構違ったことに驚きました。

まず、台湾人は出産後、夫の母親が妻の産後の面倒を見るのが当たり前になっています。また、東洋医学ではお母さんの産後の調子がすごく大切だと考えているので、産後の一ヶ月間は栄養をつけるために、色々な漢方や薬膳料理を作ってくれたりして、お母さんを休ませてくれます。

私の場合だと、上の子は夏生まれで、私の母が産後一ヶ月ほど家に来てくれました。漢方も台湾から取り寄せて、母が料理をする横で、夫がどういう風にするか習っていたんですが、それがよかったです。

なぜかという、次男は真冬の、しかも大雪の日に生まれたので母が来れなかったんです。

そこで、当時は育休をとる人があまりいないなか、夫は一ヶ月育休をとって、薬膳料理も全部作ってくれて、ありがたかったです。

—他に、驚かれたことはありましたか。

カルチャーショックではないですが、名古屋にいたときに、何気なく読んだ日本の世界史の教科書で諸外国の台湾に対する認識を初めて知ったことが、今の自分の考え方に大きく影響しています。

それ以降、台湾のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思うようになり、イベントやSNSで文化紹介などを発信しています。

実は、日本と関係することも色々あって、私がよく伝える話のひとつは、戦後、中華民国を代表する蒋介石は日本から賠償金をもらわなかったんです。蒋介石は、私たち台湾人に、これからどういう風に日本人に接していくのかについて、「以德報怨」と教えています。

これは、自分の徳、寛大な心をもって、憎い人に対して仕返しではなく恩恵を与えるという意味です。この「以德報怨」という考えは、台湾人に優しい心を残してくれたように感じます。この話は日本人に知ってもらっても、とても良い話だと思っています。

一福井に住んでから、すぐにフォルモサを始められたんですか。

実は、教室を始めたのは去年からなんです。それまでは企業研修をメインでやっていて、本格的に中国語を教え始めたのは、2011年から3年間、夫の香港駐在に同行した後からです。というのも、香港での経験は私にとって、大きな転換でした。

それまでは日本人は外国人といっても英語圏の人しか興味ないのではないかという先入観があったんですが、香港で日本人駐在員家族の皆さんと親しくして、中華文化が好きで、中国語を学びたい日本人もいるんだってことに気付かされました。

ある駐在員夫人が私に、中国語を習いたいとおっしゃったことをきっかけに、どんどん輪が広がりました。皆で一緒に漢方のクラスとか習いに行ったりもして、とても楽しかったです。

一そういった経験が現在に繋がったということですね。生徒は何名ほどいらっしゃるんですか。

集中研修で一時期だけの人もありますが、大体30人くらいです。コロナ対策として始めたオンライン授業にも、皆さん慣れてきました。

遠方にある企業研修の機会もでき、京都や滋賀、中国杭州などの人にも教えています。中国に渡航した後の隔離期間に研修を受ける人もいました。そんな風に色々なことができるようになってきましたね。

一羅さんのお仕事や活動が外国人コミュニティリーダーになったきっかけに？

きっかけは、福井県国際交流協会の人から声をかけてくれたからです。私は福井に引っ越してきた年から、県国際交流協会の通訳ボランティアに登録しています。

私は日本からの奨学金で留学して、色々な勉強をさせてもらったので、できることから少しずつでも社会貢献しようと、ボランティア活動に参加するようになってきました。

福井に来た時は、あまり外国人がいなかったし、当時知っている台湾人は2、3人もいなかったかもしれませんが、香港から帰ってきて6年目になります。福井にも少しずつ外国人が増えてきましたよね。

台湾人も増えてきていて、インターネットでたまたま繋がった人たちに声をかけて、LINEグループを作ったんですね。そのうち、皆が知っている人をグループに追加して、だんだんとコミュニティが大きくなってきました。

そんな時、平成30年の大雪が起きました。福井市ではアナウンスで大雪の情報を流していましたが、ワーキングホリデーや留学生など、福井に来たばかりの子たちはアナウンスで何を言っているかわからないし、逆に怖い思いをしていました。

私はその時にも、LINEで災害情報などを皆に流していたので、リーダーの話を聞いて、そういう情報を皆で共有できるのはとてもいいと思って、引き受けました。

インタビュー実施日：2020年12月3日

一当初、情報発信を主に考えていたリーダー事業ですが、平時は情報発信することが少なく、せっかくのネットワークがもったいない気がしています。

大学生とかとコラボするのもいいですね。実は、2021年2月に、福井大学生などと一緒に各国のお正月の過ごし方の企画を考えています。自分も小学校の時、放課後に大学生のボランティアが遊んでくれる企画に参加して、すごく楽しかった思い出があります。

大学生以外にも、小学生や中学生などと外国人が触れ合う、そういうボランティア活動があるととても有意義だと思います。

私はこういう仕事をやることもあり、子どもとか保護者向けに、何ヶ国語かの絵本読み聞かせとかの企画も面白いと思います。

リーダーはそれぞれ色々な事ができるし、特色がある。そういう自分ができることや得意なことを發揮しながら何かできるといいかなと思います。

一これからリーダーとしてやってみたいことはありますか。

実は、最初は県からこれやってほしいと言われたことをやるのかなと思ったんですが、研修会などを通して、リーダー側が主体的に活動をするという形を求められてるなって気付きました(笑)。

ただ、外国人限定で一緒に行動しているだけではやっぱり少し弱いんですよね。

今は、リーダーとしてお一人だけ日本人が参加されていますが、例えば、国際交流分野で積極的に動かれている日本人と外国人と一緒に活動するようなやり方もいいのではないかと思います。

一最後に、羅さんの将来の夢を聞かせてください。

私は幸運なことに、自分の教室を持てましたので、この教室で、色んな人が交流できたり、例えば読み聞かせの活動をするとか、そういう空間を作っているといいなと考えています。



◎ふくい外国人コミュニティリーダーとは？

「外国人県民が安心して暮らせる福井」を目指し、外国人県民等のネットワークを活かし、県内の外国人コミュニティに生活・災害情報を届けたり、日本人県民とのコミュニケーションの橋渡しや災害時の自助・共助等の担い手としてご活躍いただいています。詳しくはこちら⇒

